

JP001 利尻島 (りしりとう)

北海道：利尻富士町、利尻町

位置 N 45° 10′ E 141° 14′

面積 175,44ha

環境構成【島嶼／草原／海岸／森林（広葉樹林）】

利尻島は北海道北部の日本海に、礼文島とともにある島嶼である。島内の中心には標高 1721m の利尻山があり、その山頂から稜線が四方へ広がり、豊かな裾野は海岸となって周囲 60 km 程の丸い形を作りあげている。大きさは石垣島よりやや小さく、面積約 182 km² であるが、北方領土を除くと北海道では一番大きな島である。環境も、海岸、草原、湖沼、森林、高山といった多種多様で極めて自然度の高いことが特徴である。植物ではリシリヒナゲシやリシリアザミといった固有種が知られ、昆虫でも固有亜種の多いことが知られている。



写真：小杉和樹

選定理由

A3	-
A4i	ウミネコ

保護指定

サイトの全域（90%以上）に法的な担保がある

<保護指定の内容>

国立公園（利尻礼文サロベツ）、道立自然公園、北海道自然環境保全地域、保護林

保全への脅威

- ・選定基準種であるウミネコのコロニーがハシブトガラスの捕食圧により移動、並びに縮小している状況にある。
- ・ハシブトガラスによる海鳥のヒナや卵の捕食
- ・公共工事等による外来植物の繁茂による植生変化
- ・空港での有害鳥獣駆除（ウミネコ・オオセグロカモメ）
- ・利尻、礼文、稚内間のフェリーでの観光客の餌付けの影響

鳥類の個体数、生息環境の現状

- IBA サイトにおける重要な鳥類（IBA 選定基準種）の個体数の変化：
選定時と比べて減っている
- IBA 基準種の個体数のカウント調査実施の有無：無し
- IBA 選定基準種の個体数に影響するような、IBA サイト内の重要な生息環境の変化
変化がある：ハシブトガラスによる捕食圧が高まり、ウミネココロニーが壊滅的な被害を受けている。
- IBA 選定基準種の生息環境：非常に悪い（40%未満が最適の状態）
- IBA エリアの保全管理計画の有無：無し

保全活動

- モニタリング調査：実施者（鳥類研究者、野鳥の会道北支部）
詳細：ウミネコのコロニーの形成状況を年に一度モニタリング。
- 各季節の定期探鳥会（利尻町立博物館）

IBA サイトの保全に関する地域のグループ

- 利尻島自然情報センター

見られる鳥

利尻島ではこれまで約 280 種類の野鳥が確認されている。島嶼ゆえに、夏鳥や旅鳥の割合が多く、ルリガラやズアオアトリ、イエスズメといった日本初記録という迷行記録もある。近年では、ウミネコが海岸草原で大規模（約 5 万羽）なコロニーを形成している。

留鳥	クマガラ、アカゲラ、ゴジュウカラ、ハシブトガラ、エナガ、キクイタダキ、ウソ、スズメ、ハシブトガラス、ハシボソガラス、オオセグロカモメ
夏鳥	コマドリ、ウグイス、ノゴマ、エゾセンニュウ、シマセンニュウ、イソヒヨドリ、ノビタキ、ハクセキレイ、エゾビタキ、アオジ、クロジ、アカハラ、イワツバメ、アマツバメ、カワラヒワ、ベニマシコ、ウミネコ
冬鳥	オオワシ、オジロワシ、シロカモメ、ワシカモメ、シノリガモ、ウミアイサ、ハシブトウミガラス
旅鳥	ヤツガシラ、ツグミ、シロハラ、マミチャジナイ、カシラダカ、ミヤマホオジロ、ムギマキ、アトリ、ベニヒワ、キレンジャク、ヒレンジャク、ミヤマガラス
迷鳥	ヒメクビワカモメ、コグンカンドリ、コクマルガラス、カラアカハラ、ブッポウソウ

*利尻島の周辺海域は、マリーン IBA (Marine Important Bird and Biodiversity Areas : 海鳥の重要生息地) に選定されている。

詳しくはこちら <http://www.wbsj.org/activity/conservation/habitat-conservation/miba/>

関連団体・自治体・施設等

- ・利尻町立博物館



利尻礼文サロベツ国立公園
Rishiri Rebun Sarobetsu National Park

礼文水道
Rebun-suido

沓形岬
Kutsugata-misaki Cape

